

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q 1 2 4 (VRE)

当院における「院内感染防止対策マニュアル」の整備に伴い、下記についてご教授下さい。

1. VREとはどのような細菌ですか。
2. VRE感染症の特徴について
3. VRE感染症を疑った際の検査方法について
4. VRE感染症の感染防止および拡散防止対策について
5. VRE感染症の治療法について

A 1 2 4

誠に申し上げにくいことですが、敢えて申し上げます。日本感染症学会の施設内感染対策相談窓口の趣旨は、個々の施設内で発生した感染症の具体的対応策について対応策についてご相談をもちかけて頂くための窓口であり、今回頂いたお尋ねはその趣旨からは多少外れているのではないかと考えます。昨今はVREについても多数の参考書が出回っておりますのでそれらをご参照頂き、さらに具体的な問題で対応策にお困りであれば改めてご相談を頂ければと存じますが、ご了解頂けますでしょうか。

ただ、この病原体に対する対策の要点は、接触感染症であり、頻繁な手洗いしかない。一般に医師は手洗いを怠りがちであることはしばしば指摘されているところであり、この点が徹底できれば問題ないこと。

バンコマイシン耐性は結局は長期に亘って投薬を続けることから生ずるものであり、例えば健康保菌状態に対してバンコマイシンを投与しても除菌できないのにこれを続ける者があり、その結果としていつまでも中止できず結果的にVREやVRSAを産生することにつながっている場合が多い、ということです。その意味ではバンコマイシンやテイコプラニンなど一部の薬剤の使用は医師の裁量に委ねるのではなく、届出制ないしは規制をすることが防止対策になるものと考えます。

なお、国内でも院内感染対策となると米国CDCの指針が主な指針としてそのまま流用されることが多くなっており、次の文献が最も適切かと存じます。MMWR 1995 ; 44 (RR12) : 1-13 .

この文献はインターネットで全文公開されております。アドレスは<http://www.cdc.gov/>です。これでMMWR (死亡発病週報) のところを開き、上記の年、巻数などをいれればよいことになっております。ご参考ください。